



第40期 ビジネスレポート

2016年1月1日 ▶ 2016年12月31日

ミズホメディーは
“**もっと人のために**”をテーマに
皆様から信頼される製品を
開発/提供してまいります。

株式会社ミズホメディーとは

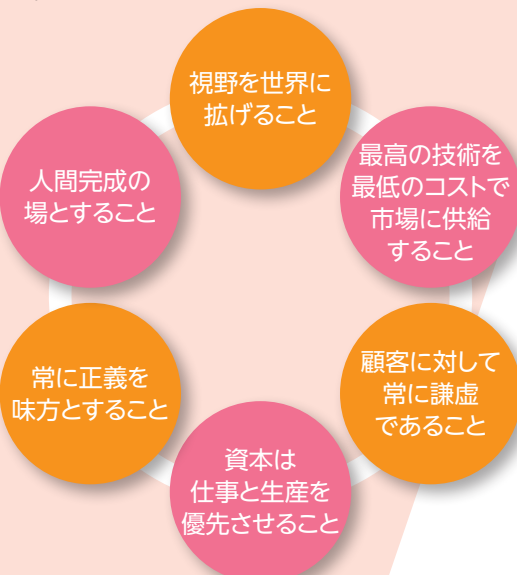
ミズホメディーの 運営基本方針

体外診断用医薬品は、著しく急激に進歩し、高度化・専門化しています。

お客様に信頼される製品を供給し続けるため、ミズホメディーは

もっと人のために

をテーマに下記の6つの運営基本方針を定め、企画・開発・製造・販売に取り組んでおります。



1.事業内容

医療用及び一般大衆薬分野の双方にて価値ある製品の供給を通じ社会に貢献

企画開発から製造、販売までの自社一貫体制

当社は、主に体外診断用医薬品に関し特許権利取得を視野に独自の研究開発や産学官共同研究を実施しております。また、ISO13485品質マネジメントを骨格とした自社一貫体制を構築し、各組織では有能で経験豊富なスタッフが事業活動を行っております。

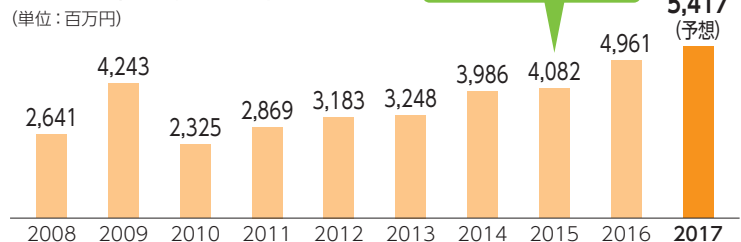
●ISO13485品質マネジメント



2.業績の推移

持続的成長の実現

●直近10年間の売上高の推移



※2009年新型インフルエンザ大流行

病院・開業医分野

診断分野の中でも最も市場規模が大きい免疫血清検査薬が当社の主力製品です。中でもインフルエンザやマイコプラズマ等の感染症の検査薬については、大病院だけでなく中小病院や開業医を中心として市場は拡大しており、迅速で簡易な検査技術であるイムノクロマト法を用いた多くの製品を販売しております。

(機器) クイックチェイサー Immuno Reader

業界に先駆けて機器試薬システムの製品化を実現



(試薬) クイックチェイサー Autoシリーズ

●Auto Flu A,B

●Auto Myco



●Auto RSV/Adeno ●Auto Adeno ●Auto StrepA

免疫血清検査薬 **クイックチェイサーシリーズ**

機器を用いない検査薬(全国の様々な医療機関に普及)

- インフルエンザウイルス
- ノロウイルス
- アデノウイルス
- ロタ/アデノウイルス
- RSV/hMPV
- Myco
- StrepA
- RSV
- hMPV
- 肺炎球菌
- 便潜血
- HBV(B型肝炎)
- TPAb(梅毒抗体)

OTC・その他分野

当社では、OTC検査薬として最も知名度が高い妊娠検査薬を、一般用検査薬として許認可された1992年当初より販売し、続けて開発した排卵日検査薬とともに、少子化対策を要する昨今の社会に貢献する製品として全国の薬局・薬店、ドラッグストア等を通して消費者に販売しております。

P-CHECK・S

99%以上の正確さ、1分から判定可能、初めての方でも簡単に検査できる妊娠検査薬



ハイテスター

2016年から武田薬品工業株式会社へ排卵日予測検査薬「ハイテスターH」及び妊娠検査薬「ハイテスターN」の供給を開始



*OTC(Over The Counter):医師の処方箋がなくても購入できる医薬品で薬局・薬店、ドラッグストアなどでカウンター越しに販売することに由来した名称



病院・開業医分野とOTC・その他分野でのハイブリッド戦略を推進し、一層の企業価値向上を目指してまいります。

株主の皆様には平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
 当社第40期(2016年1月1日～2016年12月31日)の経営成績がまとまりましたので、ここに事業の概況等につきましてご報告申し上げます。

代表取締役会長兼社長 **唐川 文成**

Q 》 当期の経営環境や決算のポイントなどについて教えてください。

A 》 売上及びすべての利益項目で大幅な伸長を達成することができました。

インフルエンザウイルスやノロウイルスなど感染症の集団発生への対応等を背景に、医療への期待が「治療」から「予防」や「ケア」へとシフトする中、体外診断用医薬品業界に対しては、健康長寿社会の実現及び少子化対策並びに小児感染症対策への社会貢献が求められています。また、高齢化に伴う国民医療費の増大を抑えるため、治療に即した検査の淘汰が進み、当社をはじめとする体外診断用医薬品関連企業にとっては、医療現場のニーズに応える検査薬の開発、さらには海外市場を視野に入れた製品開発が求められる状況にもあります。

このような環境の下、当社は、医療現場からの様々なニーズに応えるべくPOCT（診療室・病棟及び外来患者向け診療所など患者に近い医療現場での検査）メーカーとして、新技術や新製品の開発推進、既存製品の改良に尽力してまいりました。また、競争力強化のために生産性の効率化にも注力するなど、企業価値の向上に取り組んでまいりました。

これらの結果、当期の売上高は49億61百万円（前期比21.5%増）となりました。また、売上増に伴いインフルエンザ検査薬をはじめとする感染症POCT検査薬などの販促費が増加したほか、新製品の研究開発費及び人件費が増加しましたが、増収による利益増がこれらを補い、営業利益は5億29百万円（同36.3%増）、経常利益は5億24百万円（同41.2%増）、当期純利益は3億95百万円（同53.4%増）となりました。

●当期決算ハイライト

売上高
49億61百万円
 (前期比 21.5%増)

営業利益
5億29百万円
 (前期比 36.3%増)

当期純利益
3億95百万円
 (前期比 53.4%増)

●今後の主な成長戦略

病院・
 開業医分野

- ウイルス分野から細菌分野への市場創出
- 遺伝子POCT機器・試薬の開発
- 多項目マルチ検査システムの開発

OTC・
 その他分野

- スイッチOTC製品の先発販売
- 遺伝子POCT技術を応用した環境・食品微生物検査への展開

その他
 経営全般

- 自社開発・製造・販売一貫体制の展開
- 独自特許による新規診断技術の創出
- 遺伝子POCT機器・試薬システムにより潜在市場を開拓
- 検査薬のスイッチOTC化に向けた製造能力の増強 など

Q 》 当期の新製品の状況や今後の開発方針について教えてください。

A 》 これまで開発を進めてきた製品を順調に上市することができております。

当期では、2016年に大きく流行したマイコプラズマ感染症の抗原検出キット「クイックチェイサー Auto Myco」や、1回の検査でRSウイルス抗原とヒトメタニューモウイルス抗原の同時検出が可能な「クイックチェイサーRSV/hMPV」などをはじめとして、病院・開業医分野で5品目、OTC・その他分野で2品目、計7品目を上市いたしました。（当期の主な新製品につきましては、P6の「新製品トピックス」をご参照ください。）

当社は、「製品の企画開発から製造、販売に至るまでの自社一貫体制」という1つの大きな特徴・強みを擁しております。今後に向けてはこの特徴・強みをしっかりと発揮しながら、先にご説明したような社会貢献への対応を進め、「ウイルス・細菌の検出に特化した技術革新」を積極的に進めていく方針です。

●2017年12月期業績の見通し

	業績予想	増減率
売上高	54億17 百万円	9.2%増
営業利益	6億57 百万円	24.1%増
経常利益	6億56 百万円	25.2%増
当期純利益	5億03 百万円	27.3%増

トップインタビュー

具体的には病院・開業医分野では、当社クイックチェイサーの対象疾患の拡大としてウイルス分野から細菌分野への市場創出、また、感染初期の確定診断のための遺伝子POCT機器・試薬の開発に注力していく計画です。OTC・その他分野では、スイッチOTCマーケット拡大を見据えたスイッチOTC製品の先発販売を強化してまいります。このような技術をベースにした両分野にまたがるハイブリッドな戦略の下、研究開発を進めながら、来期(2017年12月期)におきましては、3品目の新製品上市を予定しております。

Q 》 来期(2017年12月期)の見通しについてはいかがですか？

A 》 病院・開業医分野の伸長を牽引役として、増収増益を計画しております。

来期の業績見込みとしましては、売上高は54億17百万円(前期比9.2%増)、営業利益は6億57百万円(同24.1%増)、経常利益は6億56百万円(同25.2%増)、当期純利益は5億3百万円(同27.3%増)を計画しております。

病院・開業医分野におきましては、主力製品のインフルエンザウイルスをはじめ、当期に発売を開始したマイコプラズマなどの各感染症POCT製品について、積極的な営業活動並びに性能改善を継続することによりシェアの拡大に努めてまいります。また、新製品の投入により一層の品揃えの拡充を図ってまいります。

OTC・その他分野におきましては、排卵日検査薬が2016年11月に一般用検査薬への転用が承認され、妊娠検査薬とともに中長期的には売上高の増加及びシェアの拡大を見込んでおります。しかし、来期に関しましては、発売して間もないことから、当面、OTC・その他分野全体としては、慎重に市場の動向を注視する必要があると考えております。

Q 》 株主還元の状況など、株主の皆様へのメッセージをお願いいたします。

A 》 当期の年間配当金は1株当たり50円とさせていただきます。

当社では業績に応じた配当を行うことを基本としつつ、配当性向、企業体質の一層の強化及び今後の事業展開に備えるための内部留保の充実などを総合的に勘案して配当を決定することとしております。この方針に基づき、当期の年間配当金は1株当たり50円とさせていただきます。なお来期におきましては、1株当たり64円の年間配当を計画しております。

私たちミズホメディィは経営理念である「もっと人のために」のさらなる具現化を目指し、これからも医療検査の要請に応じて技術革新にあくなき探求を続け、お客様に満足いただける品質の高い製品の供給に努めてまいります。株主の皆様方におかれましては、引き続き変わらぬご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

新製品トピックス

2016年に大きな流行があったマイコプラズマ感染症の抗原検出キットです。機器で高精度に測定するキットと簡易で迅速に測定するキットを同時発売しました。

クイックチェイサー Auto Myco



クイックチェイサー Myco



RSウイルスとヒトメタニューモウイルスの同時検出キットを業界で初めて発売しました。



クイックチェイサー RSV/hMPV



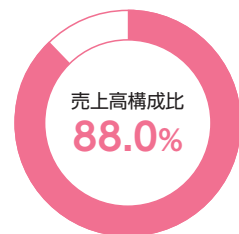
肺炎の起炎菌である肺炎球菌をわずか10分の判定で早期診断に貢献します。



クイックチェイサー 肺炎球菌



病院・開業医分野



2016年度実績
売上高
43億67百万円
(前期比 23.1%増)

国内外の医療機関向けに、ウイルスや細菌の感染の有無等を診断する「クイックチェイサーシリーズ製品」等の免疫血清検査薬、患者様の健康状態や疾患の有無、治療の経過等を診断するための「オートLシリーズ製品」等の生化学検査薬を製造販売しております。「クイックチェイサーシリーズ製品」は、迅速で簡易的な検査技術を用いた製品群が高い評価を受け、着実に売上拡大を続けております。

当期の概要

- 病院・開業医分野の売上高は前期比23.1%増の43億67百万円
- インフルエンザ検査薬の売上高は、主に機器の累計販売台数の増加に伴い、試薬の出荷数が伸長した影響により、前期比23.1%増の24億25百万円
- 肺炎球菌検査薬、RSV/ヒトメタニューモウイルス検査薬、特に高評価を得て売上を伸ばしたマイコプラズマ検査薬などの新製品も売上高の増加に寄与



◆ 主な製品のご紹介 ◆

感染症迅速診断システム



高感度及び自動検出の実現により客観的な判定が可能です。

研究用試薬

多剤耐性菌の検出で院内感染伝播の迅速な監視などに役立っています。

インフルエンザウイルス検査キット



インフルエンザの診断ができます。

生化学用検査試薬

コレステロール・尿酸・中性脂肪などが含まれます。

アデノウイルス検査キット



アデノウイルスの検査です。

一般検査用試薬

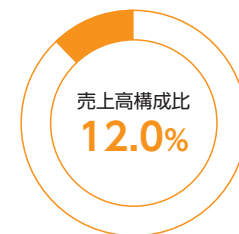
便潜血検査などがあります。

ノロウイルス検査キット



ノロウイルスによるものかどうかわかります。

OTC・その他分野



2016年度実績
売上高
5億94百万円
(前期比 11.1%増)

OTC分野では、妊娠検査薬「P-チェック・S」を自社ブランド製品として販売し、ドラッグストアのプライベートブランド製品としても「S-チェッカー」「プレセルフ」等の製品名で販売しております。また、妊娠しやすい時期を的確に予測する排卵日検査薬「P-チェック・LH」も主力製品の1つです。その他分野では、農作物の苗木などのウイルス病を見つけるため、免疫血清検査薬の技術を応用した果樹ウイルス検査薬を農業試験場等へ販売しております。

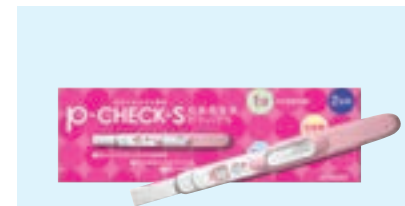
当期の概要

- OTC・その他分野の売上高は前期比11.1%増の5億94百万円
- 排卵日検査薬については、一般用検査薬としての製造販売承認を取得したことに伴い、12月に武田薬品工業株式会社向け製品の出荷開始



◆ 主な製品のご紹介 ◆

妊娠検査薬P-チェック・S



99%以上の正確さで1分から判定可能です。また生理予定日の1週間後から検査可能で、朝/昼/夜いつの尿でも検査ができます。

排卵日検査薬P-チェック・LH



独自の特許技術により、低域から高域まで幅広くLHの増加を検出します。最も妊娠しやすい時期が約1日前に分かります。

農業分野向け製品

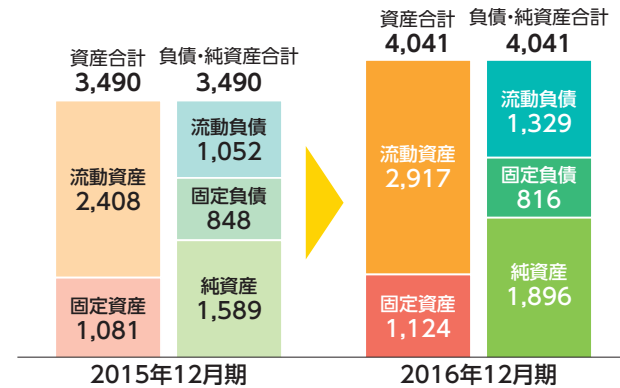


農林水産省高度化事業の共同研究成果として、カンキツ栽培における温州萎縮ウイルス感染を15分で迅速診断する「SDVクロマト」を販売しております。

財務インフォメーション

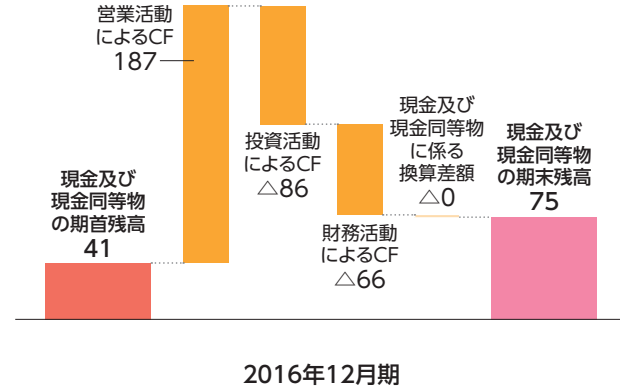
財政状態の概要

(単位:百万円)



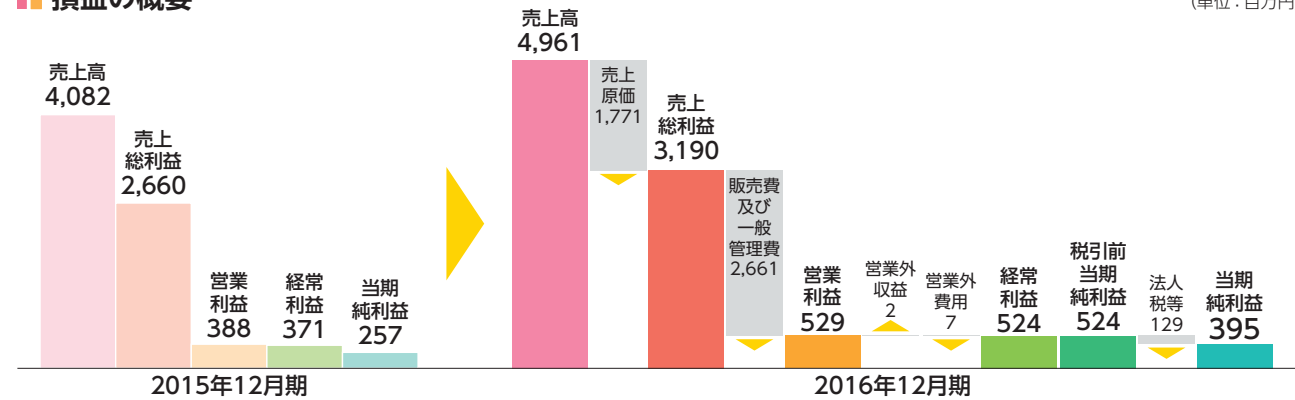
キャッシュ・フローの概要

(単位:百万円)



損益の概要

(単位:百万円)



財務諸表分析

- 20%超の増収と共に販管比率の2.0pt減を実現し、営業利益は36.3%増、営業利益率は1.2pt増を達成しました。
- 負債残高は2億44百万円増加するも、利益剰余金3億7百万円の積み増しにより、自己資本比率は1.4pt増の46.9%となりました。
- 現金及び現金同等物の期末残高は34百万円増の75百万円となりました。営業CFは、売上債権の増加を主因とするCF減少があった一方、たな卸資産の減少1億21百万円などにより、1億87百万円増加しました。

会社概要／株式情報

(2016年12月31日現在)

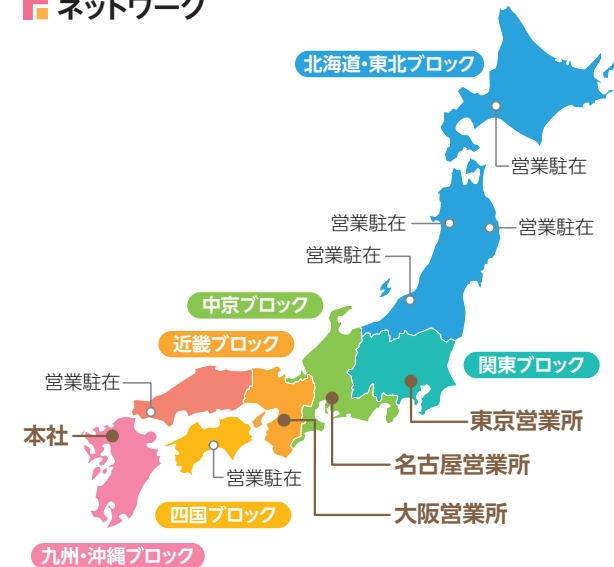
会社概要

本社 佐賀県鳥栖市藤木町5番地の4
 設立 1977年11月2日
 資本金 4億6,454万円
 代表者 代表取締役会長兼社長 唐川文成
 従業員数 142名

役員 (2017年3月29日現在)

代表取締役会長兼社長 唐川 文成	取締役(社外) 佐々木 克
常務取締役 今村 正	取締役(社外) 秋山 伸一
取締役 市丸 和広	常勤監査役 立石 貞則
取締役 佐々木 寛	監査役(社外) 重見 亘彦
取締役 檜原 謙次	監査役(社外) 橋本 高吉
取締役 神原 俊夫	

ネットワーク



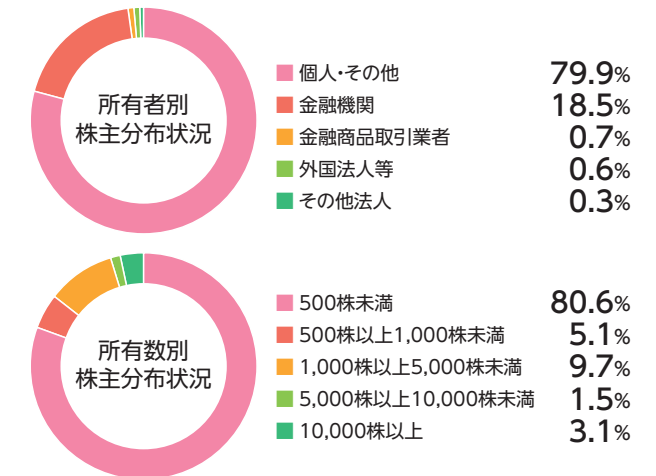
株式の状況

発行可能株式総数 8,460,000株
 発行済株式総数 2,381,400株
 株主数 748人

大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
唐川 文成	848	35.63
ミズホメディール社員持株会	197	8.27
唐川 則康	194	8.18
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	190	7.98
株式会社西日本シティ銀行	100	4.19
山里 将浩	83	3.51
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	76	3.21
渡邊 亀四郎	56	2.37
野田 裕二	54	2.26
山口 和也	50	2.09

所有者別／所有数別株主分布状況



ミズホメディー IR情報

当社のIR情報サイトページでは、決算情報などのIR関連情報をタイムリーに配信しております。また、株主・投資家の皆様専用のお問い合わせ電子メールアドレスもございますので、お気軽にご利用ください。



ミズホメディー 検索

<http://www.mizuho-m.co.jp/ir/index.html>

✉ ir@mizuho-m.co.jp

株主メモ

- 事業年度 1月1日～12月31日
- 期末配当金受領株主確定日 12月31日
- 定時株主総会 毎事業年度末日の翌日より3カ月以内
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座 口座管理機関
- 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
☎ 0120-232-711 (フリーダイヤル)
- 上場証券取引所 東京証券取引所
JASDAQ (スタンダード)
- 公告の方法 電子公告により行います。
公告掲載URL
<http://www.mizuho-m.co.jp/>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときには、日本経済新聞に公告いたします。)

このビジネスレポートに記載されている業績予想等の将来に関する事項は、現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づくものであります。実際の業績等は予期しない経済状況の変化をはじめ、様々な要因により異なる結果となり得ることをご承知おきください。また、医薬品に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではございません。

 株式会社 ミズホメディー

〒841-0048 佐賀県鳥栖市藤木町5番地の4

TEL : 0942-85-0303

FAX : 0942-85-0312

 UD
FONT

 ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
www.fsc.org FSC® C022915

 VEGETABLE
OIL INK